



府労組連最渉 最終回答 20代は10数万円の差額も ボーナス・給料、4月にさかのぼって引き上げ 子育て部分休暇小6まで拡大、非常勤に勤勉手当

府労組連(大教組・府職労)の秋季年末交渉に対し、府の総務部長は最終回答を行いました。ボーナス、給与引き上げなどで、府の人勧通りの実施を表明、他にも子育て部分休暇や非常勤の勤勉手当についても前進がありました。

**20歳代は1万円前後の引き上げで差額支給10数万円も
30歳台後半以降は一律500円、教育費、介護負担で生活維持が・・・**

30歳代後半以降の賃上げは月額500円とするなど、不十分な内容ではありましたが、人勧通り、ボーナス、給与の引き上げは4月にさかのぼっての支給が実現します。

20歳代では月額1万円前後の引き上げとなり、4~12月だけでも10数万円近い差額支給となるケースも出てきます。(支給日は今後決定)

また、来年4月から会計年度任用職員(非常勤職員)に勤勉手当が支給されることとなります。ボーナス(一時金)は期末手当(職員に定額の支給)と勤勉手当(勤務実績、評価に応じて支給)からなりますが、会計年度任用職員は期末手当のみの支給となっていました。

府労組連交渉 最終回答 府人勧通りの実施

- 給与引き上げ** 初任 13,000円 若年層重点に引き上げ(月額1万円前後)
30歳代後半以降 一律500円の引き上げ
(※枚方教育10/26付1924号で初任14,000円は13,000円の間違いでした)
- ボーナス引き上げ** 年間で給与の0.1月分引き上げ(年間4.5月分支給に)
- 会計年度任用職員(非常勤)の報酬、期末手当** 常勤職員に準じて引き上げ
- 会計年度任用職員に勤勉手当支給**
- 子育て部分休暇** 対象を小6まで拡大(現行、小1~小3まで)

今年4月に
さかのぼって実施

来年4月
から実施

子育て部分休暇などでも前進、

給与、一時金以外でも、子育て部分休暇が現行小1~小3までが対象のところを、小6まで拡大するとしています。また、在宅勤務などについても協議しながら進めるとしています。

府労組連からは、中堅・ベテラン層の大幅引き上げを求めたり、欠員の補充、「前倒し任用」の拡大を強く求めています。また、長時間労働の解消、教職員の増員についても強く求めています。

これからも力を合わせて、声を上げることで、要求の実現を目指していきましょう。

全教(全日本教職員組合)の枚方教職員組合のニュースです 枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう

声をあげれば変えられる!!黙っていても変わらない 組合に加入して、力を合わせて声をあげよう

多くの人が加われば、もっとたくさんの方が実現

右に今年度の上半期を中心とした組合の取り組みと、変化や実現した成果をいくつか挙げています。

取り組みでは、ここに書ききれないほどの取り組みを展開してきています。

しかしまだ十分な取り組みとは言えません。もっと多くの方が組合に加入していただいで、もっと多くの取り組みを繰り広げることができれば、大きな変化につながることは確実です。

すでにこれだけの変化や成果を実現

枚方教組の取り組みをもとに、すでに、右に挙げたような変化や成果を生み出してきています。

とりわけ、

教員不足問題にかかわって、積極的に問題の本質を指摘し、解決に向けた積極的な提案、申し入れを市教委に対しても働きかけてきました。

市費講師の待遇改善などにかつてない変化を生み出してきています。

もっと多くの人が加わり、大きな取り組みが展開できれば、さらにたくさんの要求の実現につながります。

注目された組合の力 そごう・西武労組ストライキ

アメリカ 自動車労組30%賃上げ、ハリウッド俳優組合4か月ストで成果

今年8月のそごう・西武労組のストライキは全国の注目を集めました。ほとんどストライキなどで会社側と対決することのない民間労組が多い中での61年ぶりのストでもありました。結果的には百貨店売却となったものの、売却元の企業が雇用のために売却後もかかわるなどかつてない動きも引き出しました。

一方、賃金引上げが大きく進むアメリカでは労働組合のストライキが大きな力を発揮しています。全米自動車労組ではストの結果30%の賃上げ、パート時給倍増を勝ち取りました。ハリウッド俳優組合も4か月にわたるストの結果、大幅な報酬引き上げ AI技術から俳優の権利を保護する規制の制定などを勝ち取っています。アメリカの財務省もその報告書で、労働組合の活動によって賃金が10~15%押し上げられているとしています。

組合に加入して、力を合わせて声を上げることが、今重要に

教員不足問題、長時間過密労働、残業代不支給の給特法見直し・・・教職員が人間らしい労働の中で、やりがい、充実感を感じられる仕事にしていく、そのためにも、今何より、組合に加入して力を合わせて声を上げていくことが求められています。

枚方教組は、制約の多い公務員、教員、さらに大阪の維新政治の下でも、極めて活発な取り組みを展開することで変化を生み出してきています。

ぜひ枚方教組に加わって、もっと多くの要求を実現していきましょう。

組合加入申し込み⇒



今年の枚方での主な取り組み

- 給特法見直し署名の取り組み
- 市内人事異動年限で申し入れ
- 部活動地域移行問題、申し入れ
- 教員不足への市教委対応に問題提起
市教委申し入れ、緊急集会開催
- 給与引き上げの「一言要求」

今年すでに実現した変化・成果

- 市教委・家庭訪問の弾力化
- コロナ、インフル、病休でも診断書不要に
- 市費講師の給与引上げ、府採用試験1次免除
- 研究発表の一部中止、希望制へ
- 若年層中心の給与・ボーナス引き上げ

枚方革新懇 枚方市駅 11・12

ガザ攻撃中止と即時停戦を求め

緊急スタンディング宣伝

70名参加
(中高生も飛び入り)

イスラム組織ハマスの無法な攻撃をきっかけに、イスラエル軍が国際法も人道も無視した武力攻撃を続けています。

イスラエル軍は、ガザ地区を完全に包囲し、ライフラインも断ち切り、海・空・陸から無差別攻撃を続けています。死者は1万人を超え、そのうちの4割が子ども、10分に1人子どもが死亡との報道もあります。

深刻な大惨事を前に「集団虐殺をやめろ、即時停戦を」と求める大規模なデモや行進が、世界各地で続けられています。

パレスチナ情勢が緊迫する中、枚方教組も加わる枚方革新懇の呼びかけで、緊急スタンディングを枚方市駅 T サイト前で実施しました。

急な呼びかけでしたが、枚方教組も加わり、中高生らの飛び入りなど約70人が参加。手に「今すぐ集団虐殺やめろ」「即時停戦を」「人質即時解放を」「命奪うな戦闘中止せよ」「Stop Genocide in Gaza」などのフライヤーを持ったり、ひとことアピールで、市民に訴えました。



優勝パレード 大阪・府職員ボランティア動員 府立学校に寄付協力の通知 大教組が撤回申し入れ

大阪の吉村知事が、阪神、オリックスの優勝パレードを全額クラウドファンディングの寄付で賄って実施と打ち上げ、タイトルに万博宣伝の内容があったことから大きな批判を浴びていました。

さらに、パレード運営に府の職員を全くのボランティアで動員するとして、勤務扱いの兵庫県との違いが際立ち、さらに批判が高まっていました。さらに、職員のボランティア依頼通知には、各部署の割り当て人数も掲載され、「ボランティアの域を超える」（大阪市役所労働組合の橋波員長）と批判が出ています。

そこに、さらに、5億円の寄付がまだ1割どまりと、なかなか集まらない中で、大阪府の府民文化部からの通知として、「1人3千円以上の寄付の協力をお願い」する文書を府立学校あてに送付して、周知を依頼していたことが発覚、さらに批判に拍車をかけています。

吉村府知事は「寄付の協力は求めている。寄付の周知を求めるのは当然」としています。しかし、大教組の米山委員長も朝日新聞の取材に「無言の圧力になる」と批判。

大教組としても文書の撤回を申し入れてその様子もテレビなどで大きく取り上げられています。

優勝パレードの万博利用、職員のボランティア動員、本来の趣旨を逸脱した寄付依頼は、すぐに撤回すべきです。



教員不足問題 「先生の心が折れたとき」(琉球新報連載) 教員経験者による、現場の実感、問題の本質に迫るレポート

今年初めに、教員不足問題で県独自の35人学級実施が困難になった沖縄。財政的な問題もある中で、全国で突出した講師の多い学校現場となっています。その中で、限界を超える多忙な中で必死に学校を支えている教員の実態だけでなく、先生たちの表に出せない、出しにくい思いを丁寧に取材した連載が注目されています。

自らも教職を経験し、現場の実感や辛さを肌でつかんでいる記者が、現場のリアルな実態とともに、教員不足の歴史や背景、制度の問題点も含めて取材しています。

教職員自身や保護者・市民が手をつなぎながら、教員不足問題に取り組む動きも丁寧に取り上げています。

琉球新報のホームページでも過去の連載を閲覧できます。是非、教育関係者、保護者・市民も含めて多くの人に触れてほしい力作です。



「先生の心が折れた時」記事一覧

教員不足問題 現場の実感「先生の心が折れる」

「先生の心が折れた時」、今日の教員不足問題の現場からの実感、本質にかかわる問題と言えます。教員不足対策に、免許のない人に特別免許を、大学院生を教壇に、採用試験を早期化して、ICTを活用すれば解決に…など様々なアイデアが行政、政治家からも出てきます。

しかし、現場の教職員、教員を目指す人のおもいや気持ちを汲み取った、希望を持たせてもらえる対応とはいいがたいのも現場からの率直な実感です。

病休に入らざるを得なくなる先生、仕事の在り方、保護者対応に自信を無くして教職を敬遠してしまう決して教師として働きたい人が減っているわけではありません。

研修、研究、研究発表、ICTコンテンツの対応…「求められすぎる教育」

日常の授業、学級づくり、生徒指導の充実で、子どもの笑顔、成長実感したい

研修、研究授業、校内研究、研究指定や発表など日常の教育活動以上の取り組みが極めてたくさん求められます。校内研究なのか、組や府、市からの研究指定なのか、何の取り組みかも職員が十分把握、理解するの難しい多さ。取り組みが進められ、成果を強調する報告書や外向けの発表会が取り組まれています。

学校外から求められる取り組みで、複雑で高度な課題が多く、若い先生、講師の先生など本来の授業やクラスづくり、生徒指導の基礎的な内容ほど求めていたり、増加の一方で対応に迫られる、不登校、支援の必要な子どもへのアプローチなど、日常の取り組みのほうをもっと充実させたいという声も職場から聞かれます。

枚方退職教職員の会 30周年レセプション

懐かしい顔がいっぱい、先輩の伝統を受け継いだ運動に

退職教職員が加入する枚方退職教職員の会が結成以来30周年を迎え、11/11(土)にメセナ枚方で、盛大にレセプションを開催しました。

枚方の教育づくりや教育運動にかかわってこられた、懐かしい顔がたくさんの中で、普段の退教のサークル活動の疲労や、かつての思い出話に花が咲きました。

